

BEETHOVEN

Ludwig van Beethoven

Symphonie Nr. 9 in d-moll

第8回佐倉の第九演奏会

《市民の第九》



2007年12月23日(日)午後2時開演

会場：佐倉市民音楽ホール

主催：



佐倉市民音楽ホール

協力：佐倉市合唱連盟

ヴェルディ Giuseppe Verdi
 オペラ「ナブッコ」から
 「思いよ、黄金の翼にのって」

ベートーヴェン Ludwig van Beethoven
 交響曲第9番 二短調 Op. 125 合唱付き
 (ベーレンライター社新版)

- 第1楽章 二短調
 アレグロ・マ・ノン・トロツポ・ウン・ポコ・マエストーソ
- 第2楽章 二短調
 モルト・ヴィヴァーチェ
- 第3楽章 変口長調
 アダージョ・モルト・エ・カンタービレ
- 第4楽章 二短調 合唱付き
 プレスト〜アレグロ

指揮：三原明人

ソプラノ : 松島理恵
 メゾ・ソプラノ : 猪村雅子
 テノール : 小見山圭
 バリトン : 春日保人

管弦楽 : 佐倉フィルハーモニー管弦楽団

合唱 : 佐倉第九合唱団

合唱指揮 : 若林 浩
 合唱副指導 : 安藤 純
 合唱指導
 アシスタント : 稲川 明子
 練習ピアニスト : 小山ひでみ
 徳富香恵

G.F.F. ヴェルディ (1813~1901)

オペラ「ナブッコ」から
 「思いよ、黄金の翼にのって」

ヴェルディは、イタリア・オペラの巨匠。「リゴレット」「トロヴァトーレ」「トラヴィアータ」「アイダ」が余りにも有名であるが、これら一連の名作に先んじて作曲されたのが「ナブッコ」である。ヴェルディ 27 歳の 1842 年 3 月にミラノ・スカラ座で初演されている。序曲に続く 4 幕 7 場の大規模なオペラである。

「ナブッコ」は、旧約聖書エレミア書、ダニエル書のバビロン王ナブコドノゾルデの物語を素材としている。大筋は、ヘブライとバビロンの戦いの中で、バビロン王ナブッコの異母姉妹が王位継承の策謀にかかり、王ナブッコは精神錯乱となり幽閉の身となる。しかし、牢獄で王は暴君となった罪の許しを祈り、やがて正気に戻り、祖国を建て直す。また、ヘブライ人の奴隷も故郷に帰す。父である王に背いた姉は、父と妹に罪を詫び、悔い改めつつ死んでゆく。

このオペラは、当時のイタリアの社会背景から、大変な人気を博した。「思いよ、黄金の翼にのって」は、第 3 幕の中で、ユーフラテス河畔での過酷な労働に明け暮れるヘブライの奴隷たちが、故郷への想いと自由を願って歌う、心に染み入る合唱。イタリアでは第 2 の国歌と言われ、愛唱されている。

... ..

思いよ 黄金のつばさにのって飛んで行け
 故郷の地のそよ風があたたかく匂う
 ヨルダン河の岸辺やシオンの壊れた塔に
 あいさつをしてくれ

ああ 失われた美しいわが祖国よ
 ああ いとしく 美しい思い出よ
 予言者の金の豎琴よ 柳にかけられたまま
 どうして黙っているのか
 胸の思いを再び燃やし 去った日々をわれらに語れ

エルサレムの運命に似た 深い嘆きの音をかなでよ
 で、なければ 苦しみに耐える力を与えよ
 美しい響きを 神が啓示されるように

ベートーヴェン (1770~1827)

交響曲第9番 二短調 Op. 125 合唱付き

この交響曲は、人間愛を原点において、人類の平等と平和、神への祈りの中から真の歓喜に至るというシラーの頌歌「歓喜に寄す」を合唱とし、管弦楽曲と融合させたベートーヴェン執念の結実である。

ベートーヴェンは16歳の頃、「歓喜に寄す」に深く感銘し、音楽作品にすることを考えた。幾度か「歓喜に寄す」の音楽作品化を試みるが、内面的に充実していた42歳(1812年)の頃から、その意欲がさらに高揚する。このことは、同年作曲の「交響曲第8番」の草稿に書かれた「歓喜、神々の美しき火花、娘、序曲を仕上げる。二短調交響曲」というメモや2年後の「歓喜に寄す」のモチーフなどから、合唱付きの交響曲の構想が伺われる。

1822年10月、ロンドンの音楽協会から交響曲の作曲依頼が入り、これに着手する。翌春からウィーン近郊のバーデンで大半を手がけ、1824年2月半ばにウィーンで完成させた。作曲の過程の中で、彼は別の交響曲でと考えていた「歓喜に寄す」による合唱を、第4楽章に入れることにした。管弦楽曲と合唱曲との融合を図った不朽の名作「第9交響曲 合唱付き」の誕生である。

1824年5月7日、ウィーンで彼自身の指揮により初演され、大好評を博したと伝えられている。

第1楽章 神秘にあふれた響きで始まる。混沌としているが次第に統一され、盛り上がり、楽章全体が確立されていく。

第2楽章 ベートーヴェンらしい激しさを持っているが、牧歌的な感じの中間部(トリオ)が、この楽章を効果的にしている。

第3楽章 平和と慰めを祈る楽章。主題が2つある独特な変奏曲形式であり、ベートーヴェンの音楽特有の厳かな感じが漂う素晴らしい楽章。

第4楽章 早いテンポの管楽器だけの演奏で始まる。続いて激しさを持ったチェロ、コントラバスの演奏となり、これにより1,2,3楽章が否定される。

その後、「歓喜に寄す」のメロディーが表れ、否定が復活し、バリトンのソロ、合唱が加わる。やがて、歓喜への行進曲となり、テノールと男声合唱の後に、管弦楽による歓喜のかけ合いとなる。壮大な歓喜の始まり。祈りの調べの後に、再び、歓喜の合唱となる。やがて、四重唱も加わり、合唱と管弦楽が一体となり、高揚して曲は終わる。

An die Freude (歓喜に寄す)

おお 友よ このような音でなく もっと快い
歓喜に満ちた調べを 歌おうではないか!

(上の2節はベートーヴェンの作)

歓喜よ 美しい神々の火花よ 楽園の乙女よ
われらは熱情に酔い
あなたの崇高な天上の楽園に入る!
あなたの不可思議な力は
世の習いが厳しく切り離れたものを結びあわせ
あなたの優しい翼が憩うところで
全ての人々は兄弟になる

大いなる恵みを受けたもの 真の友情を得たものよ
愛しい女性の愛を得たものよ
ともに歓喜の声をあげよう!
そうだ この地上でただ一つの魂だけを
わがものと呼びうる人もともに!
それをできなかった人は
涙してこの仲間から去りなさい

全て人間は 自然の乳房から歓喜を飲み
全ての善人全ての悪人は 自然のバラの小道を歩む
自然は われらに口づけと葡萄を
死によっても隔てられぬ友を与えた
虫にも楽しみが与えられ
天使ケルビムも神の前に立つ!

太陽が 広大な天空を飛び行くように
喜び 進め 兄弟よ あなたたちの道を
英雄が 勝利に向かうように

抱き合おう百万の人々よ! 全世界にこの口づけを!
兄弟よ
星空のかなたに 愛する父は住んでいるに違いない!
ひざまづいたか 百万の人々よ!
創造主を感じられるか 世界の人々よ!
星空のかなたに 創造主を求めよ!
星空のかなたに 創造主は住んでいるに違いない!

プロフィール

三原明人 (指揮)



東京藝術大学でヴィオラを専攻、桐朋学園とウィーン国立音楽大学で指揮を学び、小沢征爾、秋山和慶、尾高忠明、カール・エステルライヒャー、ヴァーツラフ・ノイマン、ゲンナジ・ロジェストヴエンスキー、モーシェ・アツモンなど著名な指揮者に師事する。1989年、第2回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクールで第2位。同年、アムステルダムでチャイコフスキーの交響曲「悲愴」を指揮しデビューする。1989/1990年のシーズン、ウィーン・フィルのコンサートでレナード・バーンスタインのアシスタントを務め、1996年にもベルリン・フィル来日公演でクラウディオ・アバドのアシスタントを務める。以来、日本、ヨーロッパ、アメリカで指揮活動を行っている。主要な演奏会は、1995年6月にフィンランド・クオピオ管弦楽団のベートーヴェン特別演奏会で「交響曲第2番、第9番」を指揮、1996年10月、再び同管弦楽団定期演奏会で、武満徹作品集とシベリウス作曲「交響曲第2番」を指揮。さらに1997年、フィンランド独立80周年記念公演でベートーヴェン作曲「交響曲第9番」を指揮する。1998年、ブルガリアのソフィア・フィル定期演奏会で、ベートーヴェン、ブラームスなどの交響曲を指揮して大成功を収めた。2003年、阪神大震災被災児救援チャリティーコンサートで、十河陽一郎作曲「木漏れ日、そして祈り」の初演を指揮。2004年、京都フィル定期演奏会で、ピニャオ作曲「マリンバ協奏曲」の日本初演など現代音楽プログラムで絶賛された。「佐倉の第九」には第1回から指揮をしており今回で7度目の登壇。松戸市在住。

松島理恵 (ソプラノ)



1992年からイタリア・ボローニャでパオラ・モリナーニに師事。1994年スペイン・バルセロナでのフランチェスコ・ヴィーニャ国際リリコ・コンクールでファイナリストに残り、マグダ・オリヴェーロに認められる。同年プッチーニ作曲「トゥーランドット」のリュー役に抜擢。1995年ヴェネツィア・フェニーチェ劇場におけるメンデルスゾーン作曲「真夏の夜の夢」でデビュー。1996年ティントレット没後200年記念公演(フェニーチェ劇場)で、ハッセ作曲バロックオペラ「ピーラモとディズベ」の主役ピーラモを務める。フェニーチェ劇場では、1998年にもプッチーニ作曲「修道女アンジェリカ」の第1コンヴェルサを演じる。翌1999年、ジャコモ・プッチーニ・コンクールで特別奨励賞を受賞。2001年、ヴィヴァルディゆかりのピエタ教会でマリーノ・バラテッロ作曲の現代音楽「海馬の夢」世界初演に出演。2002年、若手音楽家シリーズでイタリアRAI放送CD賞を受賞する。2003年、ボローニャ歌劇場でドニゼッティ作曲「ランメルモールのルチア」のルチア役で出演。2005年に名古屋電気文化会館で「海馬の夢」と水野みか子作曲「Per Acque Chiare」の日本初演でソロを務めた。

ヴェネツィアに住み、オペラ作品、イタリア歌曲の他にロシア、フランス歌曲にも力を入れ、イタリア各地で演奏活動を行っている。2002年、2003年に佐倉市民音楽ホールでリサイタルを開催。佐倉市出身。

猪村雅子 (メゾ・ソプラノ)



東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。二期会オペラスタジオ修了。青木美稚子、戸田敏子、高橋大海の各氏に師事。国府台女子学院講師を経て渡米。サンフォード・シルヴァン氏の公開レッスンを受ける。オペラ公演では、栗山昌良演出によるモーツァルト作曲「魔笛」で童子3、青島広志作曲「黄金の国」で「天の声」、ひろしまオペラ・アンサンブルの委嘱による尾上和彦作曲「ヤカモチ」で「堅香子の精」などを演じている。コンサートでは、バッハ作曲「マタイ受難曲」、ベートーヴェン作曲「第九交響曲」、モーツァルト作曲「ミサ・プレビス」「レクイエム」などでアルト・ソロを務めるとともに、サロン・コンサートなどにも数多く出演している。最近では、2004年から2006年まで、千葉県文化振興財団主催「アリア&トークコンサート」に出演し、好評を博した。また佐倉市内の小学校で社会人講師としても活躍した。これまでに多くの合唱団の発声指導を務め、現在は、四街道合唱団でヴォイストレーナー。二期会会員。佐倉市在住。

小見山圭 (テノール)



東京音楽大学音楽学部声楽科卒業。在学中、篠崎義昭、成田勝美の各氏に師事。1999年から帆足琢也氏に師事し、声楽の勉強を続ける傍ら、ボランティアによる演奏会に出演する。2001年にカスケード・ホール、翌年、ゆめりあホールにてリサイタルを開く。その後、モーツァルト作曲「フィガロの結婚」のバジリオ役、プッチーニ作曲「ラ・ボエーム」のバルベニョール役などオペラにも出演する。2005年から2006年夏までイタリア・フィレンツェに留学。リアナ・ボーリ、ソノコ・マッコリーニの各氏に師事。教会でのコンサート、ヴェストでの講習会の修了公演に出演する。帰国後、「第7回佐倉の第九」演奏会に合唱団員として友情出演。現在、演奏活動に向けて一層の研鑽に励んでいる。佐倉市在住。

春日保人 (バリトン)



東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院古楽科バロック声楽専攻修了。1998年から2004年までイタリア・トリノに留学。留学中にレッチョ・エミリアのポリフォニー音楽祭に招聘される。また聖アゴスティノ教会で中世からバロック初期の作品によるリサイタルを開催し好評を博す。

国内での最近の演奏活動は、ヘンデル作曲オペラ「リナルド」日本初演でアルガンテ役、「アグリッピーナ」のクラウディオ役で出演。東京室内歌劇場主催のヘンデル作曲「アルチーナ」のメリッソ役、またフィリドール作曲の舞踏喜劇「太ったカトスの結婚」世界初演でタイトロールを務め、ユニーク

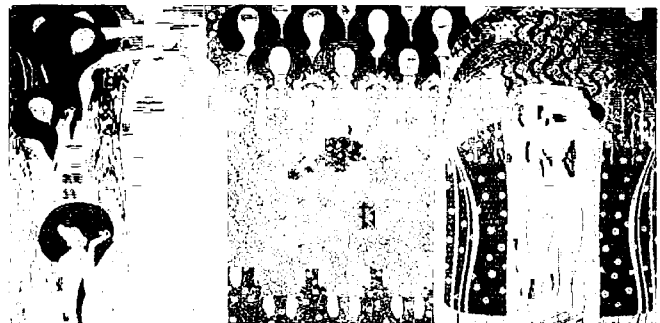
でコケティッシュな演奏は多くの人々の心に刻み込まれた。邦人作品では、信時潔作曲の交声曲「海路東征」のソロ、安藤由布樹作曲「灯は永遠に」の達雄役で出演。2001年から古楽器アンサンブル「アントロネッロ」のヴォーカルとして活躍し、2006、2007年「目白バロック音楽祭」に出演。著名なニコラウデ・フィゲイレド氏との共演を果たす他、東京国立博物館のダ・ヴィンチ展開催に際し、NHK-BS ハイビジョン放送にて「受胎告知」の前で、ダ・ヴィンチ作曲の歌曲などを演奏する。

現在、中世・ルネサンス、バロック、古典派から現代曲までのレパートリーで大活躍中。2008年1月には、神奈川県立音楽堂でモンテヴェルディ作曲オペラ「オルフェオ」に主役オルフェオで出演する。

佐倉では、ヤマハ白井店でのレクチャーコンサート、CATC296ホールでのモーツァルト記念演奏会、新保友紀子リサイタル、佐倉楽友協会演奏会、佐倉市立美術館コンサートなどに出演している。日本ヘンデル協会会員。佐倉市在住。



ベートーヴェン誕生の地ボンの郵便局前に立つベートーヴェン像 (撮影：馬場孝之)



ウィーン分離派会館にあるクリムトの壁画「ベートーヴェン・フリーズ」
クリムトがリヒャルト・ワーグナーの解釈に基づいて第九交響曲を表現

(撮影：馬場孝之)

佐倉フィルハーモニー管弦楽団

団長 石鍋 豊和 事務局長 坂本 直樹

コンサート・ミストレス：城みどり

◎ パートリーダー ♪ エキストラ

第1ヴァイオリン

黄川久美子 清水 俊子 ◎庄司 睦美 山川奈津子 吉村 遼 ♪青水 晶央
 ♪伊藤 桜子 ♪ 川崎 牧子 ♪武藤 貴子 ♪矢野 歩 ♪若林 佳水

第2ヴァイオリン

天本 幸江 岩淵 善彦 ◎二宮 伸雄 畑 保子 高金麻依子 藤城 靖典
 深澤 武夫 ♪竹中 邦夫 ♪清水 範子 ♪忍田かやの

ヴィオラ

◎ 出口 愛 塚島友佳子 ♪池淵まゆみ ♪犬塚 佳子 ♪高橋 恭子 ♪高橋 奨
 ♪山田 真弓

チェロ

◎ 加納山美子 清水 裕幸 松浦 晴彦 ♪澤田 彩佳 ♪谷口 悦史 ♪通山 光正
 ♪福田 夏絵 ♪藤塚紗也香 ♪門内 麻子

コントラバス

岡 幸枝 西中久美子 西中 啓二 八田 英司 ◎水田 裕樹 ♪高山 修
 ♪河本 治彦

フルート

阿部 恵美 上方 理絵 ◎柳田 晴生

オーボエ

氏家 徹郎 ◎辻野 豊博 松本賢一郎

クラリネット

石鍋 豊和 ◎梨木 美智 原口 豊隆 福上 未樹

ファゴット

◎大平麻海子 ♪ 遠藤由紀子

コントラ ファゴット

♪大矢 哲雄

ホルン

岡 裕昭 阪本薫子 坂本 直樹 柴田かおる 田中 裕子

トランペット

♪大崎 由莉 ♪箕輪 綾子 ♪安田 遼太

トロンボーン

阿部 博 柴田 孝一 ◎村上 茂夫

チューバ

◎ 氏家 豊

パーカッション

新井田久美子 ◎ 若菜真紀子 ♪井尻 誠 ♪近藤 博志



三原明人氏による佐倉フィルハーモニー管弦楽団の練習風景 2007年10月

佐倉第九合唱団

佐倉第九合唱団練習委員会 委員長：平山直道 庶務：大谷和子 会計：蒔 重子・成瀬多恵子

パートリーダー：ソプラノ 北條 教子・村上 光枝 アルト 勝田 治子・橘 美津江
テノール 兼島 信彦・川島 幸一 バス 滝澤 孝一・鳥井 和彦

ソプラノ

石井 いく	稲川 明子	梅田登志子	及川 祥子	大井 美保	太田 京子	鎌田由美子
河野 博美	菊間 靖子	鬼原佐智子	黒田 麗子	齋藤 光依	佐藤 右子	城後ちはる
杉野 眞弓	鈴江 淑子	高橋 康子	立田 輝子	月野木妙子	徳木ゆかり	永井千代子
永倉喜代子	中道 睦子	浪川 弘子	難波 真理	長谷川嘉代	北條 教子	堀内由紀子
堀口 美紀	本澤葉留美	松戸 清子	松本美由紀	村上 光枝	守屋 和子	山岸佳代子
山本 淑美	渡辺 美代					

アルト

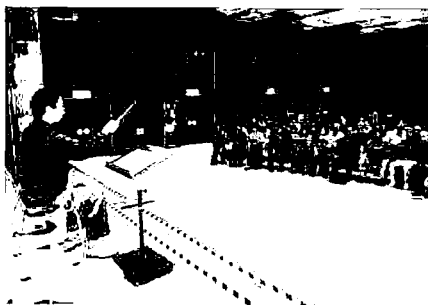
秋田久美子	蒔 重子	飯泉登美江	伊藤 愛子	江口みどり	大越美智子	大谷 和子
大伴 葉子	勝田 治子	河合 美恵	河栗 節子	川島 聡子	菊池 清子	久保田幸子
近藤 亮子	佐々木節子	清水摩耶子	鈴木 泰江	高橋のり子	竹之下得子	橘 美津江
田村美佐子	中嶋 紀子	仲田喜久子	中野 隆子	成尾 せき	成瀬多恵子	萩原 直美
橋爪美奈子	堀井 和子	堀 郁子	松浦 朋子	松山 安子	松山 洋子	矢野 昌子
矢部 彰子	吉村 昱子					

テノール

飯田 光雄	大賀 吉郎	兼島 信彦	川島 幸一	木佐貫秀彌	小林 勝	小山 輝久
角谷 薫	高橋 孝夫	橘 幹夫	田村 言行	檀谷 正彦	中川 政直	長竹 哲弘
本田 貢久	町田 憲明	松原 靖行	森下 公博			

バス

麻木 隆一	天田 祐之	伊藤 正明	太田 芳夫	金井芳太郎	河合 宏	草野 敬久
工藤 耕三	佐久間 努	嶋田 豊	高橋 伸幸	滝澤 孝一	武知 弘記	鳥井 和彦
馬場 孝之	林 忠男	原田 和行	菱田 清勝	平山 直道	藤田 克己	町山 裕雄
三屋 英俊	山崎 宏和	山中 誠	山本 茂樹	和田 勲		



若林浩氏の指揮による練習風景 中央公民館 2007.10

合唱指揮：若林 浩 佐倉高校卒業後、東京芸術大学音楽部声楽科を卒業。1985年、ウィーンに留学、M.S. ザウアー女史に師事、以来、継続して夏にはウィーンで声楽の研鑽に努めている。東京室内歌劇場のオペラを始めバッハ、ヘンデル、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルトなどの作品で、ソリスト、リサイタルと活躍中。

県内の多くの合唱団の指揮・指導もしているが、「佐倉の第九」では、第1回から合唱指導に、ソリスト(バリトン)も6回務めている。



イタリアから指揮者・ソリストを招いた第7回 佐倉の第九演奏会

(撮影：兼島 信彦)

「佐倉の第九」演奏会の歩み

第1回 1999年(平成11)年12月19日(日)

指揮：三原明人 佐倉フィル 開館15周年記念合唱団

S：大塚由乙 A：大國和子 T：横山和彦 Br：若林浩

ワグナー：ニュルンベルグのマイスタージンガー序曲

第2回 2000年(平成12)年12月24日(日)

指揮：三原明人 佐倉フィル 佐倉第九市民合唱団

S：平安克子 A：大國和子 T：榊原哲 Br：若林浩

第3回 2002年(平成14)年2月14日(日)

指揮：三原明人 佐倉フィル 佐倉第九市民合唱団

S：佐橋美起 A：大國和子 T：榊原哲 Br：若林浩

ワグナー：喜びて我らは貴き殿堂に挨拶をおくる

第4回 2003年(平成15)年3月9日(日)

指揮：三原明人 佐倉フィル 佐倉第九市民合唱団

S：佐橋美起 A：出来田美智子 T：榊原哲 Br：若林浩

ヴェルディ：思いよ、黄金の翼にのって

第5回 2004年(平成16)年5月2日(日)

指揮：三原明人 東京交響楽団 佐倉第九市民合唱団

S：佐橋美起 A：大國和子 T：榊原哲 Br：若林浩

モーツァルト：交響曲第40番 ト短調 K.550

第6回 2005年(平成17)年12月25日(日)

指揮：三原明人 佐倉フィル 佐倉第九市民合唱団

S：宮部小牧 A：石井恵子 T：水船桂太郎 Br：若林浩

ベートーヴェン：静かな海と楽しい航海

第7回 2006年(平成18)年12月24日(日)

指揮：ダニエル・アジマン ニューフィル千葉 佐倉第九合唱団

S：N.S. ディロッコ Ms：P. ボルツィオ

T：A. ベルトロ Br：S. アンセルミ

オペラ・アリアの調べ 各ソリストが1曲

第8回 佐倉の第九演奏会にあたり

佐倉市内の合唱団と佐倉フィルハーモニー管弦楽団の熱意が合体して、「佐倉の第九」演奏会は1999年12月から始まったと聞いております。以来、時には東京交響楽団やニューフィルハーモニーオーケストラ千葉を招き、あるいはイタリアから指揮者、ソリストを招いてと工夫を凝らし、佐倉ならではの「第九演奏会」が行われております。

今回の第8回演奏会は、管弦楽団、合唱団はもとより、初めてソリストも佐倉の歌手の出演による「市民の第九」となりました。

ベートーヴェンの「第九交響曲」は、彼の人生や高い精神性の理解とともに高度な演奏技巧を要求されることと思っております。これらを理解したうえで、管弦楽団も合唱団も限られた日数の中で練習に励みました。どうか温かい目で演奏をお聴きください。

「佐倉の第九」は、多くの佐倉市民のかたがたが、芸術音楽に関心を持ち、自らが参加することにより、佐倉の音楽文化の振興と拡散を願っての参加型事業の一つとして行っております。「八」は未広がりと言われ、発展に繋がります。第8回の演奏会を契機に、さらに市民に親しまれる「佐倉の第九」となるように努力してまいりたいと思います。

佐倉市民音楽ホール館長 澤本良幸

26.3

佐倉の第九演奏会実行委員

馬場孝之(第九事業プロデューサー) 柳田晴生(佐倉フィル団員)

蒔 重子(佐倉市合唱連盟) 永倉喜代子(合唱指導者)

平山高直(佐倉の第九合唱団員) 下原 勉(佐倉市民音楽ホール職員)